
プロジェクト 金融資産の減損に関する会計基準の開発

項目 第 174 回金融商品専門委員会で聞かれた意見

本資料の目的

1. 本資料は、金融資産の減損に関する会計基準の開発について、第174回金融商品専門委員会（2022年1月11日開催）において、聞かれた意見をまとめたものである。

聞かれた意見

ステップ1の選択及びステップ0の検討の進め方について

2. ECLモデルとCECLモデルの根本的な特徴と相違に焦点を当てるということ、これらの項目に分けて検討を行うという方向性に賛同するため、検討を進めて欲しい。
3. ステップ1までの想定の見積期間を教えてください。またステップ0におけるアウトリーチは、丁寧に検討を進めるということによって理解できるが、それにより検討時間が掛かり過ぎることがないように配慮する必要がある。

今後の検討事項について

4. 2020年のコロナ禍における両モデルの違いによる影響については、欧州の監督当局のリリース・レターやサポート体制についてある程度明らかになっていると考えられるため、整理すると良いのではないかと考える。
5. 見積手法については、デフォルトの定義と信用リスクを見積るべき期間がポイントになると考える。
6. 個別の債権や貸付金ではなく、クレジット・カード・ローンなどについてどのように集合的評価を行うかも、影響が大きい可能性があるため検討のポイントになると考える。
7. 担保や信用補完について、例えば有担保と無担保では当初の信用リスクや信用スプレッドが異なるため、今後の検討においても、これらの切り分けが必要か否かについて考慮する必要がある。
8. 信用補完などを踏まえた、企業の内部管理方法については関心が高いため、開示に反映されるよう検討して欲しい。
9. IFRS任意適用企業にとっての利便性とは具体的にどのような検討事項か教えてください。

しい。

10. 個別引当におけるDCF法や、引当の対象となる償却原価などの付随する論点についてもステップ2以降で取扱いを検討する予定なのか教えて欲しい。
11. CECLモデルにおける債権者による不良債権のリストラクチャリングについては現在、米国において基準改正が進められていると聞いているが、改正後の基準に基づき会計基準の開発を行う予定か教えて欲しい。

以 上